

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 2月18日

【評価実施概要】

事業所番号	2272300969
法人名	NPO法人 シンセア
事業所名	グループホーム たみの里 日乃出町
所在地 (電話番号)	〒417-0056 静岡県富士市日乃出町81 0545-57-6581
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年12月5日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	人	常勤 8人, 非常勤 9人, 常勤換算 11人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300 円	昼食 600 円
	夕食	600 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成19年11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 88.7 歳	最低 66 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鷹岡病院 中央病院 久保田内科クリニック 久保田歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から4年を経過、職員が共通の目標を持って利用者へのより良いサービスの提供に励んでいる。日々の気づきは全職員で検討し工夫され利用者に快適に過ごしていただけるよう改善している。積極的な外部情報収集や交渉により利用者の楽しみや張り合いを引き出す取り組みも多く見られた。職員の努力に報いるための法人の待遇改善やバックアップ体制などの協働関係も円滑なホーム運営の要となっている。包容力のある管理者と前向きで明るい職員に家族の信頼も厚く、居心地の良いホームである。今後、現状に満足することなく、少しでも深いものを探り出して利用者へ反映し、目標達成できることを期待する。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回調査で改善が指摘された項目で、事故報告書の活用について様式を改め、多くのヒヤリハットを収集し、検討して対策につなげていることが確認できた。感染症マニュアルが整備され利用者の定期健康診断受診も協力医との連携により実施に向けて検討中である。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、ユニットごとに全職員で話し合い纏めたものである。また、外部評価とは別にホーム独自の相互評価が予定されており、職員個々の、またホームとしての優れた面と弱い面を探り、それを補って質の高いサービスを提供するための取組みを始めようとしている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は民生委員、町内会長、市職員、利用者家族などの協力により、おおむね定期的に開催されてきた。自主防災や行政に関わる問題へのアドバイス、ホームの趣味の集いに近隣のお年寄りを訪問して誘い交流できたことも運営推進会議の産物である。会議はホームのイベントやボランティアが来てくれるときに組んで利用者の日常の様子や職員のひたむきな支援の姿も見えていた。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族は協力的であり、意見や苦情も直接出してくれる。意見は職員で話し合い速やかに対応している。難しい問題には時間をかけて、また本部と連携し解決を図っている。毎年1回3月に家族への報告会を行なっているが同じような悩みを抱える家族の情報交換の場として家族会の継続の必要性を感じている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、町内会の会合に毎回出席して情報収集をしている。運営推進会議の地域委員が介護に対する関心が高いことから利用者の暮らしを安全にするための多くのアドバイスを戴いている。隣の飼い犬は利用者のペットでもあり、近隣へは災害時への協力などお願いして快諾をいただいている。餅つきやバーベキュー等ホームの行事にもお誘いして円滑な交流をしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「生き 生き 生きる」を系列ホームの揺るぎのない共通の理念として掲げている。	○	グループホームの運営基本指針が地域密着型として示されたことからホーム独自の地域密着型サービス実現に繋がる理念の制定の検討をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「利用者第一を実践しており、朝出勤すると利用者全員に声かけしている。具合が悪そうなときはいつもよりこまめな観察と声掛けをしている」との職員の理念実現に向けての取り組み姿勢であった。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して清掃活動や行事に利用者も参加して地域の一員としての役割を担い、交流を楽しんでいる。小学校へ挨拶に行ったことから運動会や生活学習科の催しに案内を戴き、模擬店での買い物など子供たちとのふれ合いも楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義をよく理解し前回評価に対して職員と共に積極的に改善に取り組んでいた。今回自己評価についても職員に割り振って気付きを促すよう図っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者の状況に配慮しつつも回数を重ねている。地域委員が協力的なことから貴重なアドバイスをいただいたり、イベントやボランティアの来訪時に併せたことからグループホームに対する理解を深め、また地域貢献に繋がる活動にまで広がっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の作品を発表する場として介護福祉展に展示スペースをいただくための交渉や、SOSネットワークに関する相談等ホームだけでなく、地域としての福祉向上のための働きかけを積極的に行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月写真を掲載したホームの新聞を利用者個々に担当職員のコメントを添えて家族の元へ送付している。また法人が発行する季刊の新聞も送っている。写真付きの新聞を送っていたことに対する家族からの感謝の籠もったお手紙が届いていた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ボックスが設けられているが、家族からは意見や不満などが直接届いている。意見に対しては職員で話し合い対応できるものについては速やかに対応している。ホームとしての対応が困難な事案に対しては本部に相談して段階を踏んで解決を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を最小限にするべく、法人として待遇改善や褒賞を設けて職員が生き生きと働ける職場作りに取り組んでいる。また職員が退職の際には、利用者個々の状況によるが挨拶をして職員の不在を曖昧にせず納得していただくよう取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や指導者研修等指名で研修に参加している。その他の研修案内は回覧し希望者は自費で受講している。また、受講後は職員や内容によっては利用者にも報告をして実践に結び付けている。	○	職員、管理者を含め相互評価の取組みが計画されているので、その中から見いだされる課題などをテーマとした勉強会、研修の計画に取り組む願いたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市内14グループホーム連絡協議会の今年度代表を務めており、活動として市の介護保険課、警察、消防に集まっていたり防災に関する情報の共有を図ったり、交換研修により職員が他ホームを見学できる機会を作る等サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	○	他ホームの見学は職員にとって多くの学びがあり、サービスの向上に繋がることからひとりでも多くの参加の機会をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学は自由であり、利用希望者にはお試し入居も可能である。家族と協力しながら利用者が「ホームが一番の居場所」と思えるまで取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や保存食作り、昔ながらの食材に関する知恵など職員は利用者から教えていただくことが多い。ホームの生活は利用者の希望をかなえて職員も一緒に楽しむ姿勢であり、「家族ではないが共に楽しんだり悲しんだりしている。利用者もそう思っていると思う」という職員の言葉を聞くことができた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、表情やしぐさの中から出来る限り利用者の思いや意向を把握し、本人の希望に沿った支援が出来るように取り組んでいる。難聴で意思の疎通が不自由な利用者に対して穏やかに繰り返し言葉かけをされていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のユニット会議でのカンファレンスや、日々の細やかな観察を基に、介護計画を作成している。介護計画を見据えて経過記録を記入しており、状態変化が見られた場合には利用者を確認してカンファレンスで話し合い、状況や意向に添った支援を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化が生じた場合は随時の見直しを行なっているが、おおむね介護認定更新時の見直しとしている。家族との話し合いや同意確認は行われている。	○	日々の介護、ケアは確実に実行されているので、毎月のモニタリングやカンファレンスで浮かび上がった課題を基に、3ヶ月に1度以上、及び状態の変化に応じた随時の見直しをお願いしたい。また、それを可能にする為の仕組み作りが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
をお願いしたい。					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。また、近隣の一人暮らしのお年寄りを訪問、フラワーアレンジメントを楽しむ会へお誘いして、ホーム利用者との交流に取り組み地域に対する支援の一環としている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等と話し合い、かかりつけ医への継続受診やホーム提携医療機関への移行など、個々に適切な医療が受けられるように支援している。提携医による往診や、月2回の訪問看護師による看護も行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、本人・家族の希望やホームとしての全職員の意識統一など話し合いが行われているが、基本方針やマニュアル等の整備までには至っていない。	○	重度化した場合や終末期のあり方について、本部と協働して、基本指針の確立や対応マニュアルの整備等が望まれる。その上で全職員が終末期対応を共有する仕組み作りが求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損なわないよう言葉かけや対応に心がけている。また、利用者個人個人に関わる事柄は居室で話をするなどの配慮も行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	のんびり過ごす、急がせないを基本に「無理にすすめることをしない」で日々の食事、体操、掃除や散歩等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは利用者と相談しながら決めている。調理、盛り付け、片付け等も利用者とともにに行い、食事中も、職員から利用者へさり気なく言葉がけがあり和やかな雰囲気であった。時間が掛かっても利用者が満足して箸をおくまで、見守りがなされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の希望を聞き、一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴支援が行われ毎日入浴する利用者もいた。また、入浴チェック表にて間が空かないよう配慮されていた。利用者が気持ちよく入浴できるよう職員の手で補助具にも工夫をしていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や職業、家族の要望、日常の何気ない対話の中から、その方の得意なことや趣味を把握し、配膳、食器片付け、洗濯物干しや取り込み、ホーム内の掃除や趣味の塗絵、ちぎり絵、フラワーアレンジメントなど活躍の場を提供している。半年かけて職員と共同制作のちぎり絵の大作も飾られていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日近くの公園への散歩の他、季節の花見やピクニック・ドライブ・外食など、利用者の希望や健康状態、天候に配慮しながら、様々な工夫を凝らして外出機会を創り出している。高齢者無料優待を利用して最近行ったキグレサーカス見学では2時間以上終演まで楽しんできたとのことであった。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、日中は鍵を掛けず、見守ることを心がけている。周囲の協力も得られ、近所の人から利用者が外出したことを知らせてもらうこともある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を定期的に行っており、水や食糧の備蓄もあり、隣人の協力もお願いしているが、非常時の連携作りは十分とは言えない。	○	近隣消防署への消火・防災訓練の協力依頼や、運営推進会議を通じて地域自治会や住民との協力関係作りなどへ取り組むことが望まれる。近く大掛かりな防災訓練を計画しているのでは是非実施されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調により食事の量や形態を調整し、摂取状況は生活日誌に記録しているが、水分摂取量の記録は行われていない。バランスの良い献立を心がけボランティアの管理栄養士に献立表のチェックをお願いしてアドバイスをいただいている。	○	利用者一人ひとりの通常の必要水分摂取量の把握と日々不足無く摂取できているか確認する為の記録が望まれる。今後も定期的な管理栄養士等専門職による献立表のチェックをお願いしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の壁や入口廊下などに、利用者による書や季節感のある装飾物などが掲示され、入居者の活動状況を表す工夫がなされている。リビングにはゆったりとしたソファや観葉植物が置かれ落ち着いた雰囲気が感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた家具やTV、写真、花の置物、創作物などが持ち込まれていて、個々の利用者が安心して暮らせる環境が整えられている。また、利用者の行動を落ち着かせるために「卒業証書」を飾ったり、利用者の動線にそったベットの配置や安全対策など職員の暖かい工夫が感じられた。		